

果樹DGSプロジェクト～くだものでつなげる命の輪～

長野県上伊那農業高等学校

代表 竹松 友吾 鈴木 悠聖

背景・目的

私たちは「今ある美しい農業を次の世代にも引き継いでいきたい」という思いで多角的視点から持続的な果樹栽培を目指し日々、**果樹DGS**プロジェクトに取り組んでいます。地域の出向き、生産者、製造業、地域の消費者から話を聞くと様々な農業に関する課題が浮き彫りになりました。そこで私たちの出番です。その全ての課題に真っ向勝負で挑戦しました。

地元農家の声＝地域課題

新技術である高密植栽培の施肥基準がない。指針がほしい
肥料代・農薬代の高騰で経営が苦しい
規格外果物の活用
地元の果物をPRしてほしい

取組内容

- 1 果樹園における適切な施肥量、有機資材の投入、バイオ炭の開発活用 小野田化学工業株式会社・信州土壤医の会との協働研究
- 2 地元企業かんてんぱぱ製造の「養土藻」検証。パパナ農園との協働研究
- 3 はね出し果物についての加工方法、成分分析を長野県農村工業研究所と協働研究
- 4 持続的な栽培方法で育てた果物を活用した新商品開発。アンサンブル駒ヶ根 & アルコバレーノと協働開発



取組成果

1 適切な施肥量の構築 小野田化学工業株式会社

数年間に及ぶ土壌解析の結果、硬盤層が存在する土壌において下層まで養分が届いているのを確認 **果肉障害ビタービット減少**



小野田化学工業新潟工場研修の実施。肥料の知識・技術を習得



し尿処理した活性汚泥の活用(無料)により肥料代コスト削減へ

地元資源の有効活用



農家の方からも研究成果は高評価参考にしてくれる農家の方も

バイオ炭製造技術の確立・活用・普及

MOKI製作所協力の元、バイオ炭製造技術を確立し毎年発生する剪定枝を全てバイオ炭にすることに成功。活用の輪を広げ、野菜、花、果樹、牛糞(消臭)などに活用している。



農家の方も大勢参加

バイオ炭講習会開催



農地で循環活用

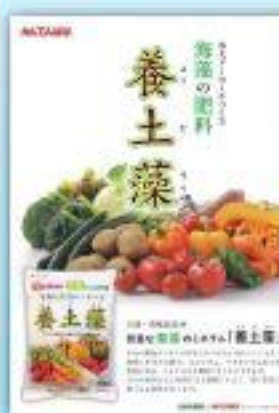


炭を通じて学ぶ、上伊那農業高校の持続可能な農業への取り組み



2 収量UP成功・リンゴの課題チップバーン減少

「かんてんぱぱ」の寒天製造時に生まれる海藻かす肥料。これを表土に散布すること栄養補給&雑草にも被覆効果の可能性有



有限会社 **ぱぱな農園** との協働研究



収量UP成功

チップバーン減少

3 はね出し果物の成分分析・活用

JAグループ長野県農工研

規格外果物の活用方法を地元農家の方からアドバイスを頂くドライフルーツへの活路を研究。成分分析結果から有用な機能性成分をドライフルーツにしても確認することができた。



長野県農村工業研究所にて加工・成分に関する学び



有用成分の確認に成功

成分分析

長期保存技術の確立を目指し、様々な保存袋を用いて品質研究を行った結果、GL無地STP(トッパン社)が最も優れている事が分かった。長期保存も可能に。



袋の品質調査



完成したドライフルーツ



物撮り技術

販売するためのノウハウをLuxworks代表の内田さんから学ぶ

4 持続可能な取組で栽培した果物で商品開発

アンサンブル 社会福祉法人 アンサンブル会 arebolsiem

地元の企業と連携し育てた果物を活用して新商品開発を行い。地元果物をPRすることができた。

販売するのを楽しみにしてくれている地域の方報道を見て、来店してくれた人も。県外の観光客も大勢来店



ブルーの栽培研究

ブルーフィナンシェ



アンサンブル駒ヶ根と協働開発



アンサンブル駒ヶ根感謝祭

販売PR大成功



ナシ栽培



アルコバレーノと協働開発

販売PR大成功

まとめ **果樹DGS** を地域に発信

地域農家の課題に正面から向き合い、私たちにできることを日々、模索し挑戦してきました。地道な活動を継続し、それが少しずつ芽を出し、地域や各専門家を巻き込み大きな活動に変化しています。**果樹DGS**で持続的で美しい農業を推進していきます。私たちの挑戦は続きます!!

目の前の命と向き合う

